

### ③ 村の移り変わり

今からおよそ2000年ほど前、私たちの村に人が住み、生活を営んでいたことは、今和泉遺跡から発掘された出土品や、住居跡があったことから知る事ができます。

そのあと、いくつもの集落を支配していた豪族の墓が、田村山古墳として残っていることからわかります。人びとは荒地や沼を開いて田や畑にし、耕地をしだいに増やしていきました。

世の中が、武家政治の時代になると、地頭・領主という武将の支配を受けるようになりました。そして江戸時代になると、組割がなされ、私たちの村の南部の集落は橋爪組に、残りの大部分は中荒井組となりました。会津藩からの命令で、年貢のことや、くらしのことまで世話をする肝煎という役柄の家が、どこの集落にもおられました。年貢のうちでも、米はいちばん大切なので、下荒井の城跡には米倉がいくつもつくられていたということです。

武士の世の中もおわり、若松県と磐前県とが福島県に合併して、現在の福島県となったのは、明治9年8月21日のことです。そして今の北会津郡の名前がついたのは、明治12年1月27日となっています。

明治21年には市・町・村の制度が公布されて、翌年の4月に荒井村、館ノ内村、川南村ができました。荒井村と館ノ内村が合併して荒館村と



田村山古墳